「どう生きるか」から考えるACP

▸▸13

患者とともに築く医療安全

―「第22回医療安全大会」を振り返りながら

耳原総合病院でのセラチア院内感染事故の教訓を風化させないために、毎年7月に開催されています。

医療と介護を核に前進ともに作り上げる医療安全

T（Tigra）：田端理事長のお話を聞きながら、「22年も経ったんだ」と時の流れを感じました。当時を知っている職員も少なくなっていて、改めて、教訓から何を学び、継承・発展させていくかが問われていますね。

T子：理事長からは、当時の感染管理について、残念ながら標準的な水準に追い付いていなかった反省や、医療の質の向上は平時から学びの大切さ、また常にアンテナを外に向けて情報収集していくなど、情報の発信や原則を守ることが語られました。

T：セラチア院内感染当時、患者さんの治療も経験した医師として、「医療安全なくして医療は語れない」と強調されていましたね。健康友の会みみはらの江戸会長からは、コロナ禍で患者さんと医療者が、安全な医療を行うために必要なエプロンが不足した中、会員のみなさんで作製してくださったことも。

T子：セラチア院内感染の時には、アルコールなど、感染防止に必要な物品が品薄になる中、取引業者さんが、「ここの病院が今一番必要とされているから」と届けてくれたこともあったみたいだよ。

T：そんな支えがあったんですね。安全は医療者だけの課題ではなく、一般の方との相互理解があって、信頼関係の中で熟するものなんですね。

医療の質向上を掲げ、どう向き合うのか

T子：金城先生の講演では、「何を語り、何を伝え、何を残し、何をなすべきか」について問いかけられたように感じたんだけど、ACPも医療安全も通じるものがあるよね。

T：その瞬間という場面を誰が判断し、意思決定をするのか、難しいことも起こり得ますよね。

T子：自分の最期にどう向き合うか？また感染や医療事故のリスクにどう向き合うか？

T：金城先生が話されたように、病気にならないことを選ぶことはできないけれど、病気とどう向き合うかを私たちは選ぶことができる。

T子：そう。日常から医療の課題を地域の中で、ひざを交えて語ることが大切だね。

T：当日偶然、会場を通りかかった方に「今日は、何かの催しがあるんですか？」と聞かれて、内容をお話ししたら（十分お伝えできていないにも関わらず）、飛び入り参加してくださいましたよね。

T子：長時間にも関わらず、最後まで参加してくださって、「参加できてよかった」との感想にも励まされました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

セラチア院内感染の経験を教訓にコロナ禍に地域で立ち向かう医療実践

平時は、感染（事故）のリスク対応で済んだものが、コロナ禍では不測の事態へと進み、危機的状況が招来するかもしれません。リスクマネジメントはもとより、何かが起こった時にも臨機応変で、タイムリーな事態の収束に向けた対応を肝に銘じたいと思います。

そのためには、危機をとらえる感性を磨きながら、日頃の医療について語り、学び合う努力を怠ることがないよう、身を引き締めた第22回医療安全大会でした。

（ペンネーム　T子&Tigra）

> ACP（Advance Care Planning）
> 将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセスのこと。

住み慣れた地域の暮らしを支えています

「耳原ヘルパーステーションともうず」

「耳原ヘルパーステーションともうず」は、介護保険サービス事業として、訪問介護のヘルパー派遣をしています。

ヘルパー事業所は、2カ所あります。〝ともうず老松〟は堺区の旭ヶ丘会館にあり、ヘルパー22人とサービス提供責任者4人が在籍し、〝ともうず鳳〟は西区の鳳クリニック2階にあり、ヘルパー21人、事務員1人、サービス提供責任者3人が在籍しています。この2つの事業所で、堺区・西区・中区・北区・南区の一部に至るまで、訪問介護を提供しています。

介護の現場では、全国的にヘルパー不足が深刻になっており、耳原ヘルパーステーションも同じ状況です。資格をとっても介護の仕事をされない方も多く、「ヘルパーの仕事の魅力を少しでも知ってもらえれば」と日々奮闘しています。訪問介護のヘルパーは1人で利用者さんの自宅に伺い、介助や支援を行うため、最初は不安も多くあります。少しでもその不安が軽減できるよう、〝ともうず〟ではサポートに力をいれています。経験を積み重ねていくことで、その不安もやりがいにかわっていきます。人生の諸先輩方でもある利用者さんとのふれあいで、ヘルパー自身が成長できることも多く、「介護の仕事をしていなかったら、もっと視野の狭い人間になっていたに違いない」と思うぐらい、人を変えてくれることもあります。「また来てね」「顔を見るとホッとするわ」「いつもありがとう」などの言葉が大きな励みになり、やりがいにつながっています。

高齢になっても障がいがあっても、少しの介助や支援で、住み慣れた地域で暮らしていくために、訪問介護はなくてはならない仕事です。ヘルパーの仕事に興味がある方、聞きたいことがある方など、いつでもご連絡ください。お待ちしております。

（耳原ヘルパーステーションともうず統括科長　北村和子）

耳原ヘルパーステーションともうず老松
堺市堺区旭ヶ丘中町2丁1－7
☎072－245－2990

耳原ヘルパーステーションともうず鳳
堺市西区鳳南町5丁595
☎072－260－5060

理事会報告

7月理事会〈概要〉

開催日時：7月28日（木）午後6時～8時15分

出席：理事　25名
監事　3名

〈主な内容〉

◆報告
・拡大常任理事会、各種委員会概要
・健康友の会みみはら、社保・平和のとりくみ
・無料低額診療の各事業所実績
・2022年度第一四半期決算概要
・2022年6月度決算概要
・新型コロナウイルス感染症の対応について
・診療所事務長の異動について
・主要管理者会議の概要

◆協議確認事項
○なし